



市ホームページ内フォトギャラリーや公式ツイッターでもまちの話題を紹介しています!



▲コスモス(鮫ヶ地)



お祝い状を受け取る大城ヒサエさん

## 100歳をお祝い!

8月20日より、数え100歳の高齢者宅や施設を市長が訪問するご長寿訪問が行われました。今年は、11名の100歳の方が対象で、そのうち9名一人ひとりに直接お祝いをしました。市内の特別養護老人ホーム「輪中の郷」を訪問し、大城ヒサエさんにお祝い状とお祝い金を手渡しました。市長より「これからも元気に長生きしてください。」とあいさつがありました。

## 新米給食会



おいしい新米を頼る生徒たち

9月2日市内小中学校では、弥富地域農業機械銀行受託部会、十四山受託部会より頂いた早場米のこしひかりを食しました。無言給食という新しい生活様式を取り入れた給食となりましたが、生徒たちからは「いつものお米よりももちもちしていておいしい」と笑顔が溢れていました。

食後の質問タイムでは「おいしいお米の作り方」について問われると、弥富地域農業機械銀行受託部会飯田会長は「人間と同じでおいしい土、水をあげることが大事」としっかり食べることの重要性を説きました。

## 甦る水の記憶

博物館明治村(犬山市)にて、「宵の明治村」が催され、開村55周年を記念し「甦る水の記憶」と題した企画が開催されました。これは、金魚絵師であり市広報大使の深堀隆介さんによる江戸時代から生まれ、明治時代には、庶民にも広まった「涼」をとる創意工夫とされた「金魚」をテーマとしたアート作品の展示や建物全体を用いた空間演出が行われました。

7月23日には、深堀さんが来村し、舞台上で金魚を描くライブペインティングが行われました。

8月1日には、舞台劇作家であり市広報大使のやとみまたはちさんの発案「巨大弥富金魚イルミネーション」、15日、16日、29日、30日には「本物の弥富金魚すくい」が行われ、多くの来村者が金魚による「涼」を体感しました。



## やとみ 歴史探訪

このコーナーでは、弥富市のまだまだ知られざる歴史について、弥富ふるさとガイドボランティアが紹介していきます。

### 柴ヶ森

柴ヶ森は、市の北の端、荷之上町と愛西市との境に位置します。平治元(1159)年の平治の乱で敗れた源義朝らが、知多の野間へ逃げる途中にこの地に立ち寄ったと伝わります。舟に積んだ柴の下に隠れてこの地まで来た一行が「もう大丈夫だろう」と舟荷の柴を川岸に上げたことから、「二之江村」が「荷之上村」に改められ、川辺に積み上げられた柴が芽を出し森のようになったことから、「柴ヶ森」と呼ばれるようになったといわれます。

柴ヶ森の荷之上八幡神社には、宝永2(1705)年の年号がある、弥富で一番古いとみられる灯笼があります。また、大正4年に建立された記念碑には、旧佐屋町出身の元内閣総理大臣加藤高明の題字「柴ヶ森」が刻まれています。

柴ヶ森は昭和51年に市の文化財に指定されました。



▲柴ヶ森

## ちょっと一息 “防災” 防災クイズに挑戦してみませんか?

問題

気象庁では、洪水発生の危険がある河川に対して水位の危険度レベルを設定していますが、そのレベルは何段階に分かれていますか?

①

3段階

②

5段階

③

7段階

答えはP14の下をご覧ください。

危険度レベルを5段階に分類し、1から順に「水防回待機水位」「注意水位」「警戒水位」「避難判断水位」「危険水位」と名称を定めています。